

# 平成28年度 阿賀野市理科部 活動報告

部長 平井 涼

## 1 研究主題 「子どもが学習内容を実感できるための教材研究」

### 2 研究の概要

子どもたちにとってより分かりやすい授業にするためには、日々の教材研究が不可欠である。また、分かりやすい授業にするためには、一人一人が実感できるような実験や観察の活動が大切になってくる。

今年度は、子どもが実感を伴って理解することが比較的難しい単元を取り上げ、どのように教材を工夫して授業を行うことができるのかを研修した。

### 3 研究の実際

#### (1) 実技研修会

- ① 日時・会場 平成28年6月7日(火) 阿賀野市立水原小学校 理科室
- ② 講師 三市北蒲原郡地区理科センター 長谷川 直紀 様  
三市北蒲原郡地区理科センター 佐久間 淳子 様
- ③ 研修内容

前半は、講師の先生から、地学にかかわる学習内容の系統性や指導上の留意点等について説明していただいた。後半は、第6学年「大地のつくりと変化」の単元で導入できる教材について紹介していただき、実際に製作した。



#### (2) 授業研究会

- ① 日時・会場 平成28年11月22日(火) 阿賀野市立堀越小学校 理科室
- ② 指導者 阿賀野市立安野小学校 校長 芋川 敏之 様
- ③ 授業者 阿賀野市立堀越小学校 教諭 立川 裕二 先生
- ④ 研修内容

第6学年「大地のつくりと変化」の授業参観と協議会を行った。授業者からは、ICT機器を使った教材提示や話し合い活動のさせ方、「寒天」でつくった地層モデルを使った実験について提案があった。

6学年「大地のつくりと変化」の単元では、本来、本物の地層に繰り返し触れさせることができればよいのだが、現実には困難である。こうした場合、単元の導入時に子どもの興味・関心を引き起こし、問題意識をもたせ、持続させることができるかが重要なポイントとなる。今回の提案授業における「地面の下の様子をイメージ図に表す活動」や「ICT機器を活用した事象の提示」などを組み合わせる手立てが、子どもに実感を伴わせるのに大変有効であることが明らかになった。



### 4 成果と課題

指導が難しい単元を選定し、「部会で教材研究→実際の授業で教材の有効性を検討する」と各回の活動につながりをもたせるように年間の活動を計画したことで、授業者以外の部員も年間を通して主体的に参加し、知見を得ることができた。

次年度も今年度の研修の流れを生かして、指導が難しい単元についての指導法について研修し、子どもが実感を伴って学習を行うことができるよう部会の活性化を図っていく。